

平成14年度
近世史料館秋季展

村松コレクション

＝諸国名所展＝

期間：平成14年11月5日(火)～12月28日(土)
場所：金沢市立玉川図書館 近世史料館 展示室



「日光山諸所案内手引草」

金沢市立玉川図書館近世史料館

【展示趣旨】

江戸時代前期より、江戸・京都・大坂など、都市やその近郊、街道沿いの名所・旧跡・風俗を紹介する名所記が刊行されるようになり、江戸後期には図会として、挿図のある平易な読み物が出回るようになった。また中には各地の名所・名物を、角力（すもう）の番付風に並べて、一覧表にして楽しむものもあり、多種の面白いものが今日に残されている。

今回の展示は、多くの名所記や名所図会を収集してこられた村松家から、近年寄託された資料を中心に、昭和43年に金沢市に寄贈され、これまで村松文庫（特殊文庫21）として公開してきた品々もあわせて、村松コレクション「諸国名所」展と称して、関係資料を選んで展示するものである。

【村松コレクションについて】

村松家は、藩政時代に江戸三度飛脚（月3度の金沢江戸間の飛脚）を職としてきた金沢在住の家で、以前から歴史資料を多数コレクションしてこられたが、金沢市に多数を寄贈され、昭和44年発刊の金沢市立図書館「村松文庫目録」には、1091件（2140点）が記載され、特に日蓮宗、名所図会、地図、俳諧、狂歌に関するものが比較的多い。大正時代に第12代の当主だった村松七九氏には『江戸三度』という著書があり、村松家の歴史がわかる。

その後、村松文庫の補遺として38件が追加され、当館の村松文庫は総計1129件（2179点）を数える。近年、現在の第14代当主から新たには972点の資料が寄託された。この寄託資料は、今回が初公開である。

展 示 品 解 説

- (1) ^{しんこく にほんよ ちろていぜんず}新刻 日本輿地路程全図 元治2年(1865) 74×100cm
大阪 美濃屋庄兵衛・発行。別名「新刻大日本全図」「新刻大日本路程全図」。国名、郡名、城、陣屋、関所、社寺、有名な合戦場や名所旧跡などが書き込まれている色彩豊かな絵図。(特 21.2-147)
- (2) ^{かいどうこうていひょう}街道行程表 文政13年(1830) 石川益守・誌 39×53cm
文化15年(1818)の改訂。京都と江戸日本橋の行程表を東海道・中山道別々に記す。例えば、京都と大津は距離「三リ(里)」と表示。(寄託 F-1)
- (3) ^{だいにっぽんやまかわいちらんかがみ}大日本山川一覽鑑 明治16年(1883) 大阪 田中安次郎 発行
52×38cm 右側は山の番付で、富士山は中央最上部に「全国無双」として別格に扱い、「立山」「白山」等、有名な山が並ぶ。左側は川の番付だが、石川県では「手取川」が左半分の中央あたりに列せられている。(寄託 I-21)
- (4) ^{だいにっぽんくにくなだかきおおかわすもう}大日本国々名高大川角力 刊年不明 綿屋喜兵衛・発行 52×37cm
前項とテーマは同じ「川」の番付だが、番付の順番はかなり違っている。利根川が東の大関で、西の大関は筑後川。東日本と西日本で、ほぼ東西を分けているが例外もある。「カガ 手取川」は東の前頭となっている。(寄託 I-30)
- (5) ^{はんか ち みち}繁華の地・道のり案内 刊年作者不明 42×33cm
藩政期の全国の繁栄している城下町等の番付。江戸からの距離が書かれている。江戸・京都・大坂の三都は別格で番付に入っていない。「加賀金澤」は、東の小結。この資料はパンフレット裏表紙に掲載した。(寄託 I-27)
- (6) ^{だいにっぽんじんじゃぶつかくさんばいろく}大日本神社仏閣参拝録 明治17年(1884) 大阪 田中安次郎 発行
52×38cm 右側は神社、左側は寺院の番付。関東・関西地方の社寺が多く、中央「後見」に、四国八十八ヶ所、西国三十三所、巖島神社、日光東照宮、太宰府天満宮などがあり、右下に「カガ 白山比咩」とある。(寄託 I-20)
- (7) ^{だいにっぽんしんじみたすもう}大日本神事見立数望 子年 木版1枚 45×33cm
東日本と西日本に分けて、有名な神事(祭り)を比較したものだが、東西の区別はあいまいである。右下に「加州 金沢祭」とあるが、卯辰山観音院神事能のことで、武士や町人で賑わった。(寄託 I-25)

- (8) 諸国名所の図 (卷子1、木箱入) (寄託品)
- ①南都寺社名所記 木版彩色 28×43cm
「なら大仏ゑづ屋庄八」発行。
- ②ならめいしょゑづ 木版彩色 28×43cm
「なら大仏ゑづ屋庄八」発行。
- ③新板吉野山名所記ひとりあんない 木版彩色 33×50cm
吉野山の山桜は一目三千本として古来有名。
- ④多武峯之図 (平安)速水春暁齋画 木版彩色 32×45cm
藤原鎌足を祀る談山神社がある奈良県桜井市南部の山。
- ⑤摂州住吉宮地全図 文政10年(1827) 木版彩色 32×93cm
大阪市住吉区にある住吉大社。航海・商売の神さまとして有名。
- ⑥かうや山ゑづ 木版彩色 34×48cm
和歌山県の高野山絵図。空海の開いた真言宗の霊場として有名。
- ⑦音羽山清水寺略図 (洛中)井上春曙齋・画 木版彩色 32×47cm
京都市東山区にある清水寺。西国三十三所16番札所。
- ⑧大和国法隆寺伽藍之図 木版彩色 33×48cm
聖徳太子に関係が深い奈良県斑鳩の法隆寺。世界最古の木造建築。
- ⑨初瀬山之図 木版彩色 32×47cm
奈良県桜井市にある真言宗豊山派本山の長谷寺の図。
- (9) 大日本早見道中記 刊年不明 友鳴松旭・作 37×229cm
江戸日本橋の三河屋鉄五郎・発行。友鳴松旭は大坂の人で、他に『大日本道細見記』がある。江戸時代末期の道中記で、本来は折本だが、当資料は裏打ちして巻物状にしてある。旅の案内のために距離や関所などが記入され、巻末に人馬賃や宿代金の表が付録としてある。
(特 21.2-157)
- (10) 日本府県略図 明治5年(1872) 70×83cm
大屋愷敏・作。作者は金沢生まれの洋学者で、本格的な英和辞典である『広益英倭字典』を明治7年に発刊した編者としても有名。県内の文明開化に功績が大きい。
(特 21.2-148)
- (11) 諸国温泉鑑 番付 明治26年(1893) 35×50cm
東京 阿部善吉・発行。上州(上野国、現在の群馬県)草津温泉の図を扇状に大きく掲載し、上段に各湯の効能を示している。「加州山中乃湯」などが西方の前頭に列せられている。
(寄託 I-23)

- (12) ^{だいにっぽんおおほしみたてずもうぼんづけ}大日本大橋見立相撲番付 刊年不明 29×23cm
 岩国 橋屋和兵衛・発行。橋の見立^{みたて}(鑑定)を、橋の長さの間数(1間は約1.8メートル)で比較したもので、発行者の地元にある、岩国錦帯橋が西の大関として描かれており、観光土産に作ったものと考えられる。東の前頭に、「加州浅の川橋」(62間)、「加州犀川橋」(53間)が書かれている。富山城下の舟橋は舟をつないだ常設の橋で、長さ「55 ソウ(艘)」として東の小結に位置づけられている。(寄託 I-29)
- (13) ^{しょこくみなとみち}諸国湊・道のり附 刊年発行者不明 30×23cm
 諸国の湊町の番付で、江戸を基点に陸路や海路の距離を加えて合計距離を記す。東の方は、東海・瀬戸内地方などで大関は「相州 浦賀」。西の方は北陸や東北地方などが書かれ、大関は「肥前 長崎」。西前頭に「能登福良」が見える。「のとあふぎ(能登小木)」、「かがのもとよし(加賀の本吉)」(美川のこと)等が記されている。(寄託 F-3)
- (14) ^{にほんめいざんずえ}日本名山図会 文化元年(1804) ^{たにぶんちよう}谷文晁・画、河村元善・編 3冊
 別名『名山図譜』と呼ばれ、江戸・京都・大坂等で発売された。江戸期の有名な画家・谷文晁(1763~1840)が諸国を実際に回り、代表的な山を描いたもの。白山は3つの高い峰(左から大汝峰・御前峰・別山)が鋭利に描かれている。当3冊の内、第2巻は彩色されている。(特 21.2-146)
- (15) ^{ほっけしよこくれいじようき}法華諸国霊場記 嘉永5年(1852) 京都 年参講・編 10×22cm
 身延山参拝等のために編集した小冊子。京都・法華宗諸本山御用所の書林(平楽寺)が発行。京都(本山16ヶ寺等)、甲斐国(身延山久遠寺)、鎌倉、江戸(池上本門寺など)、北国路(金沢は53ヶ寺と記し、18ヶ寺の名を列挙)、佐渡、大坂、西国霊場などを図示している。(特 21.1-117)
- (16) ^{えどめいしよはなごよみ}江戸名所花 暦 明治26年(1893)刊 ^{おかやまとり}岡山鳥編、^{はせがわせたん}長谷川雪旦画
 春(第1巻)は上野東叡山寛永寺の桜、夏(第2巻)は両国橋の納涼風景、秋(第3巻)は沢庵開基の東海寺の楓樹^{もみぢ}、冬(第4巻)は隅田川の雪などの図が描かれている。天保8年(1837)初版以来56年目の再刊。長谷川雪旦(1778~1843)は江戸の名所絵を多数手がけた絵師。(特 21.2-174)
- (17) ^{にっこうさんしよしよあんないてびきぐさ}日光山諸所案内手引草 天保11年(1840) 日光 大嶋久兵衛・発行
 折本を広げると、縦16cm、横158cm。有名な「日光東照宮陽明門」や「華厳の滝」等が記された携帯用の地図で、旅の土産用に作られたもの。末尾の記載に寛政2年(1790)元板・文政5年(1822)再板とあり、何度も印刷されたことがわかる。(特 21.1-50)

- (18) ^{きそ じめいしよず え}木曾路名所図会 文化2年(1805) ^{あきさとりと う}秋里籬島・著 ^{にしむらちゆうわ}西村中和・画
 6巻7冊。長野県西南部を木曾(別称・木曾谷)と称するが、木曾路とは信濃国塩尻から美濃国中津川に至る木曾街道のことで、中山道の一部である。本書は、中山道だけでなく日光街道などの名所旧跡も案内している。大坂の河内屋太助等による発刊。(特 21. 2-189)
- (19) ^{よしのむらりようじっけいじゆんけんき こう}吉野村領拾景巡見紀行 写本年不明 ^{や たしじょけん}矢田四如軒著
 別名『吉野十景遊覧図記』。寛政4年(1792)、金沢から吉野谷村への、道中記。^{や たしじょけん}矢田四如軒(1718~1794)は150石で前田土佐守家の家老職を勤め、長谷川派の絵を学んだ。^{おおたどうけん}太田道兼(頼資)著とする記述が『国書総目録』等にあるが『加賀吉野 祇陀寺の歴史』(吉野谷村教育委員会)の考証により、矢田四如軒著とした。(特 21. 2-200)
- (20) ^{かすがおおみやわかみやごさいれいず}春日大宮若宮御祭礼図 安永9年(1780)刊 ^{ふじはらなかと も}藤原仲倫著 木版1冊
 奈良市の春日大社と摂社若宮神社の江戸時代の祭礼図。春日大社は藤原氏の氏神として発展した。その祭礼は、勅使を迎え日本三大祭に数えられた。本来は木版3冊本であるが、当書は合冊し水彩絵具で着色してある。(特 21. 1-58)
- (21) ^{かいせいえいり なんとめいしよき}改正絵入 南都名所記 文化2年(1805) 奈良 絵図屋庄八・発行
 副題「奈良名所旧跡古歌集」。春日社・東大寺・興福寺の祭礼や建立の縁起などを記す。安永3年(1774)初版の改定版。(特 21. 2-231)
- (22) ^{やまとめいしよず え}大和名所図会 寛政3年(1791) ^{あきさとりと う}秋里籬島・著 ^{たけはらしゆんちようさい}竹原 春朝 斎・画
 7巻。浪華 高橋平助ほか・発行。大和国(奈良県)について、地域別に故事などを解説しながら面白く読めるようにした読本。(特 21. 2-235)
- (23) ^{いずみめいしよず え}和泉名所図会 寛政8年(1796) ^{あきさとりと う}秋里籬島・著 ^{たけはらしゆんちようさい}竹原 春朝 斎・画
 4巻。浪華 高橋平助ほか・発行。和泉国(大阪府南部)について、地域別に故事などを解説した読本。前(21)の姉妹版。(特 21. 2-236)
- (24) ^{かわちめいしよず え}河内名所図会 享和元年(1801) ^{あきさとりと う}秋里籬島・著 ^{に わとうけい}に 丹波桃溪・画
 6巻。浪華 森本太助ほか・発行。河内国(大阪府の一部)について、地域別に故事などを解説した読本。前(21)(22)の姉妹版。(特 21. 2-238)

- (25) ^{なにわ にぎわ}浪華の賑ひ 文久3年(1863) ^{あかひ鐘なり}鶏鳴舎暁晴(暁鐘成)編、松川半山画
全3編の内の第2編。幕末期大坂の南方面の名所旧跡(四天王寺など)
や、繁華街(道頓堀角芝居など)の風情を記す版本。暁鐘成(1793~1860)
は大坂の読物作者で著作多数。(特 21. 2-229)
- (26) ^{ばんしゅうめいしよじゆんらんず え}播州名所巡覧図絵 文化元年(1804) ^{むらかみせきでん}村上石田・著 ^{なかいらんこう}中井藍江・画
別名『播磨名所巡覧図会』。5巻。大坂 塩屋忠兵衛ほか・発行。播磨の
名所旧跡の解説本。著者・村上石田は、大坂で活躍した篆刻家。絵師・
中井藍江(1766~1830)は、詩文・茶の湯にも通じた画家。(特 21. 2-239)
- (27) ^{さいゆうりょだん}西遊旅譚 寛政年間(1790頃)刊 司馬江漢・著
題箋『画図西遊譚』。全5巻の巻2、巻3の2冊。巻2は、志摩の鳥羽、
近江の石山寺、大坂の天王寺、加古川、姫路、厳島、岩国までの旅記。
巻3は、下関、博多、長崎出島の見聞記で、オランダ船や外国人商館
の内装、人物などを興味深くスケッチしている。司馬江漢(1738~1818)
は洋風画の開拓者として有名。天明8年~寛政元年(1788~1789)に、
江戸から長崎へ旅しオランダ人に油絵を学んだが、当資料はその折の
旅行記。(特 21. 2-240)
- (28) ^{さいごくさんじゅうさんしよ めいしよずえ}西国三十三所名所図会 嘉永6年(1853) 暁鐘成・著
別名『西国名所図会』。松川半山および浦上公左・画。4冊本であるが、
最初の一巻を欠く。西国三十三ヶ所の観音霊場の図会。第1番・那智山
青岸渡寺(和歌山県那智勝浦町)から第33番・谷汲山華厳寺(岐阜県谷汲
村)までを中心に周辺の名所などを描く。(特 21. 2-242)

